

# 事務事業点検シート

## 図書館運営管理事業

施策名	生涯学習の推進		
事務事業名	図書館運営管理事業	担当課	生涯学習課
委員名	御意見等		
川西会長	<p>1. 市民サービス向上の視点：          民営移行後開館時間が延長され、開館日数も年間60日増加した。その効果と思われるが、移行初年度で入館者数は38%増加し、貸し出し利用者数は12%増加した。これは、大きな成果である。民営化の成果として評価したい。一方、サービスの質的な改善については、特に目立つものがない。質の評価にはまだ早過ぎるようにも思うが、この点が惜しい。</p> <p>2. 民営から市直営へ変更するプロセスの合理性、透明性の視点：          来年度から図書館の運営を民間委託から直営に変更する由である。その場合当然合理的な理由が必要であるし、検討過程も出来るだけ透明性、公開性が必要である。合理性の部分については、過去との比較や他の委託先との比較が重要と思う。市民アンケート、従業員の意識調査等は極力過去比較、他社比較が望ましい。然し、この比較がどの程度行われたのか、不明である。出来るだけの合理的な説明を、透明性をもって公開すべきである。</p> <p>3. マネジメントシートの記載が守谷市の評価システムに適合しているかの視点：          この変更という重大な結論に至るまでに、多くの問題の存在とその把握、原因の追究、対策の実施とその効果の検証等が行われたはずである。まさに、当委員会が力説し、市としても取り組んでいる【PDCA】の実施に向けたわかり易い具体例が存在した（或は存在すべきであった。）はずである。然しマネジメントシートには、このPDCAがない。これでは、マネジメントシートを作成し、これを最重要書類として内部、外部評価を行い、予算にも反映させるという、評価システムの基本的な機能が損なわれる。近年市の努力により、評価システム自体は、大変改善されている。然し、その中でこうしたシートが存在するのは大変残念である。</p>		
吉田副会長	<p>第三者評価および諮問という非常に重要な事案をマネジメントシートに記載しておらず、また、標準的に使用されている指標（たとえば有効登録率など）を用いていない点でも、担当課（旧中央図書館）の行政能力と意欲の不足を感じます。</p> <p>今般の第三者評価と諮問の仕方については、担当課の対処は安易であるとの誹りは免れないと思います。一般的な第三者評価の定式、本来的な答申のプロセスから逸脱したものとなっているからです。図書館協議会と担当者の大変な努力にもかかわらず、結果として、今後の守谷市における第三者評価、諮問、さらには審議会のありように、抜本的な改善を促す悪しき前例になったと史料します。</p> <p>特に、経費試算において積算根拠を示さず、図書館サービス（たとえばレファレンス）の実態に対するエビデンスの認識が稀薄であることは、図書館および地方行政の専門的な見地からすると、来年度からの市職員による図書館経営に危惧の念を抱かざるをえません。</p> <p>図書館サービスそのものは、指定管理者となったことにより、利便性は格段に向上しました。ただし、指定管理者に対する生涯学習課の対応は、必ずしも十分であるとは言えません。</p>		

牛島委員	<p>施策名は「生涯学習の推進」であるにもかかわらず、維持管理だけを目的とした事業のようである。</p> <p>さらに、管理業務上のトラブルが起きているにもかかわらず、それがマネジメントシートに反映されていなかったようである。また、トラブルへの対処も消極的な方法が選択されていたように感じた。類似の問題が起きた場合への教訓も少ないのではないかと。よって、施策への貢献度は非常低とする。</p> <p>現状は、生涯学習の推進への貢献に対して、この上なく伸びしろがある状態であろう。守谷市の将来にとって、非常に重要な施策であるため、今後の展開に期待する。</p>
松尾委員	<p>市 HP の図書館協議会の議事内容が第 4～6 回非公表となっている。この間、市から審議会に直営か運営委託をそのまま継続するかの諮問が行われ第 7 回審議会で直営が答申された。しかし公表議事内容 1～3 回分と答申内容に違和感が残る。運営委託取りやめに至るまでの問題点が把握出来ない。生涯学習課の説明を聞いても、①後半 3 回の審議会内容の非公開理由、②直営・運営委託継続の二者選択ではなく他社へ運営委託代える方法の検討がどうされたのか、③28 年度実績の評価だけで現状運営がダメという評価をした理由、評価が早すぎないのかという疑問への検討状況、④市側の運営不満に対する委託先の改善回答内容等が判らない。</p> <p>直営→指定管理方式にする時も議論があったし、わずか 1.5 年程度で現状方式を見切る理由が生涯学習課の説明を聞くだけでは判らない。</p> <p>また、事務事業マネジメントシート記載内容を読んでも、図書館運営方式を代えるまでの問題点は把握出来ない。何のために事務事業マネジメントシートを作成しているのかを考えて欲しい。</p>
西尾委員	<p>頂いた資料、公開されている資料等から図書館が必要とされていると判断できる。</p> <p>しかし、指定管理者の管理事業が今年度で終了し市の直営に戻ることには疑問が残る。3 年の事業の 2 年目までの評価で終了が決定されていることと、他の業者の検討がされなかったことは疑問である。今回の業者が最大手であるので他は検討されなかったとの回答だったが企業選定において、そこが重要視されているのかと市民として不安になった。</p> <p>また、市民との連携事業においても読み聞かせなど、子供対象のものは多く見られるが、大人が快適に利用できる場所となる検討はあまり見受けられない。指定管理者になって、入り口付近の休憩スペースなども使い勝手がよくなってきており、さらに良くなることを期待していたので、直営に戻っても検討は続けていただきたい。</p> <p>また、最近活字離れ、紙媒体離れも著しく、変わって電子書籍、オーディオブックの充実度が上がってきている。図書館でも取り組みをされているが、まだまだ活用できるほどではなく、今後、民間との提携なども検討されることを期待する。</p> <p>マネジメントシートについては、事業についての目的や手法への記載が総括的になっており、文言も一般的によくみる文章である印象である。</p> <p>もっと単年度もしくは最近の数年度の目標をはっきりさせてこそ、取り組みへの理解、評価もできるのではないかと。</p> <p>また施設利用の満足度アンケート結果であるが、自由意見は羅列する</p>

	のではなく、内容ごとに分類し、問題点を把握し取組むべきである。					
	川西 会長	吉田 副会長	牛島 委員	松尾 委員	西尾 委員	合計
市民サービス向上の 視点	15	15	0	8	16	54
民営から市直営へ変 更するプロセスの合 理性、透明性の視点	7	0	0	5	6	18
マネジメントの記載が 守谷市の評価システ ムの趣旨、目的に適合 しているか	0	0	0	5	3	8